

## (11)九州



九州地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_は上方に変更、 \_は下方に変更)。

### 前回からの主要変更点

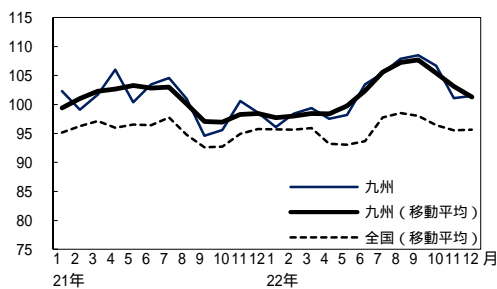
	前回(令和4年11月)	今回(令和5年3月)	
景況判断	緩やかに持ち直している	<u>一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している</u>	
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	<u>一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる</u>	

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる。

10 - 12月期の鉱工業生産は、汎用・生産用・業務用機械は半導体製造装置等が減少したこと、輸送機械は普通乗用車等が減少したこと等により、前期比3.9%減となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
電子部品・デバイス	13.6	14.3	4.7	9.9	6.8	4.6
輸送機械	13.5	26.8	13.4	13.5	0.5	4.6
食料品	12.2	1.6	0.4	1.4	1.5	0.1
汎用・生産用・業務用機械	12.2	30.9	13.0	17.6	19.5	8.4
化学・石油石炭製品	10.0	2.6	1.3	10.6	2.0	0.2
鉱工業	100.0	7.6	3.9	1.7	5.2	0.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10 - 12月期、12月は速報値。

(備考) 1. 2015年 = 100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

## 2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

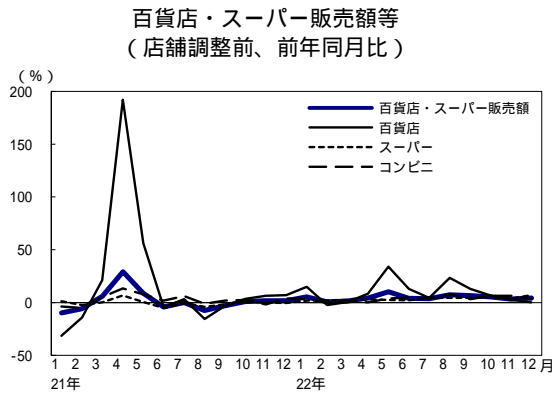
10 - 12 月期は前期比 1.2% 増となった。月別にみると、10 月は前月比 1.3% 増、11 月は同 1.0% 減、12 月は同 0.6% 増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12 月期は前年同期比 4.3% 増となった。月別にみると、10 月は前年同月比 5.5% 増、11 月は同 3.1% 増、12 月は同 4.3% 増となった。

百貨店は、10 - 12 月期は前年同期比 2.8% 増となった。

スーパーは、10 - 12 月期は同 5.5% 増となった。



	2022年10-12月	2022年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.2	1.3	1.0	0.6
百貨店・スーパー(*2)	4.3	5.5	3.1	4.3
百貨店(*3)	2.8	6.7	2.7	0.2
スーパー(*3)	5.5	5.1	3.9	7.0
コンビニ(*3)	5.3	6.3	6.5	3.4
乗用車(*4)	12.6	27.8	7.1	5.9
(季節調整値)(*4)	10.8	17.7	2.7	1.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

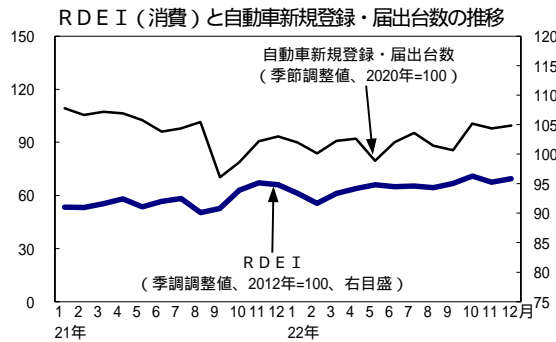
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値、

コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値、

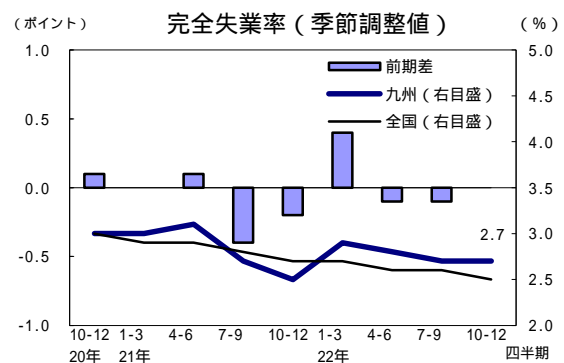
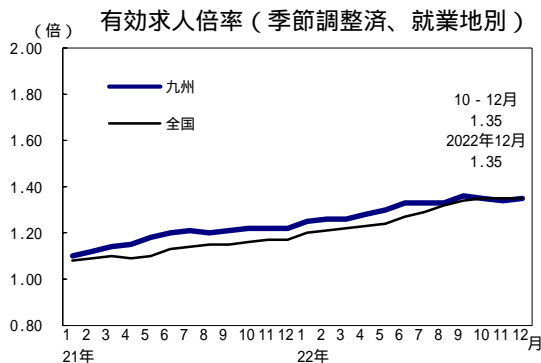
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

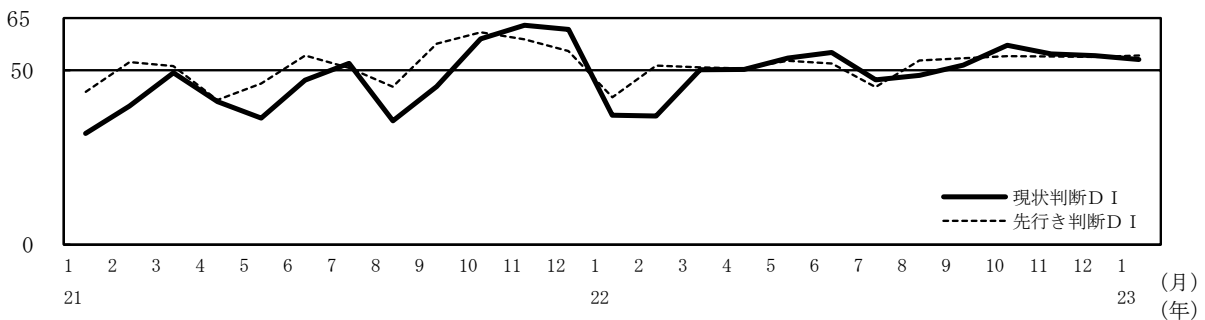
(13) 景気ウォッチャー調査 (令和5年1月調査) 景気判断理由の概要

11. 九州

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計動向関連	□	・行動規制は緩和されているが、依然として景気は悪いまま継続しており、物価高のため美容まで消費に回らない(美容室)。	
		▲	・現在の消費減退は、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加による影響よりも、物価上昇による買い控えが影響を与えている(商店街)。	
		○	・企業の勤務形態が、ほぼ新型コロナウイルス感染症発生前に戻り、また国内外からの旅行者も徐々に増えたことで、来客数が増加している(コンビニ)。	
	企業動向関連	□	・通常、年明けは出荷量が激減するが、今年は余り減少していない。景気が回復方向に進んでいることに変わりはない(輸送業)。	
		▲	・案件は豊富であるが、材料不足や価格高騰、加えて人手不足により、工事案件が進まない(金属製品製造業)。	
		○	・新型コロナウイルス感染症との共存の動きが加速しており、人の流れは、元に戻りつつある。製造業・建設業は材料不足が続いているが、値上げもある程度実行され、受注残の水準は高い(金融業)。	
	雇用関連	□	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしているが、新しい生活様式が実践され、中心市街地や飲食店等への人出はそれなりの活発さである。しかし、物価上昇などの影響もあり、右肩上がりではない(新聞社[求人広告])。	
		○	・3か月前は、まだ様子を見ている状況であったが、徐々に採用も積極的になっている。特にホテル業界の求人需要が高まっている(求人情報誌製作会社)。	
	その他の特徴コメント		□	□: 話題性の高い新型車の発表があり、引き続き来客数は増えている(乗用車販売店)。 ▲: 物価高騰と金利上昇の影響で、客の動きが止まっている(設計事務所)。
	先行き	家計動向関連	□	・3か月後は少し気候も良くなり、電気やガス等の使用量も下がると期待しているが、商品の値上げが予想され、好転するとは考えられない(その他サービスの動向を把握できる者)。
○			・新型コロナウイルス感染症の感染症分類が5類へ引き下げられ、消費者心理としては改善に向かうと期待している。卒入学に向けた商材等は今後活発に動く予想され、また、観光客の動きも活性化するため、来客数は増加していくと見込んでいる(百貨店)。	
企業動向関連		□	・今の段階では、人手不足と原材料の価格高騰で難しい状況であり、値上げによる受注関係への影響が、今後の課題である(窯業・土石製品製造業)。	
		○	・例年どおり、年度末に向けて一定数の案件は増えてきている。円安の動きも落ち着きを取り戻しつつあり、今後は徐々に利益も回復すると予想している(家具製造業)。	
雇用関連		○	・年度末の注文は順調に受注しており、人数も前年より増加している企業もある。また、4月からの派遣料金改定に前向きな企業も多い(人材派遣会社)。	
その他の特徴コメント		○	○: 寒波も弱まり次第に暖かくなると、当県ではキャンプシーズンに入るため、来店客の増加を期待している(一般レストラン)。 □: 大手企業がベースアップなど賃上げを相次いで表明しており、すぐに購買につながれば景気にプラス効果があると考えられる。しかし、大多数の中小企業が賃上げできるかは疑問であり、大きく景気が上向きになるとは考えにくい(スーパー)。	

(D I) 現状・先行き判断D I (九州) の推移 (季節調整値)



21

22

(月)  
23 (年)